新津中央コミュニティだより

発行者；新津中央コミュニティ協議会（新潟市秋葉区新津本町１－２－39 TEL 0250-24-4219 Fax 0250-24-4229）発行人；太田清志

新津川に水仙を植える会（代表；譽田　朗さん）では、平成23年11月6日㈰、昨年度に引き続き新津川西側堤防斜面260m・1,200㎡にわたり水仙の球根12,000球を植栽しました。

当日は、児童を含む約250人が参加し植栽作業に心地よい汗を流しました。共催団体である当コミ協からも、環境緑化部員を中心に球根の植え付けに協力しました。この春には、新津川を挟んだ両岸を埋め尽くす、白と黄色の水仙の花の群れが、訪れる人の目を楽しませてくれる事でしょう。

巻頭言　百聞は一験にしかず

新津中央コミュニティ協議会　副会長　**荒　木　英　男**

“百聞は一見にしかず”広辞苑では「何度も聞くよりも一度実際に自分の目で見る方が優る」とある。東日本大震災のような災害に遭遇したら、私たちは速やかに避難できるだろうか。災害時には市や県・国は避難所の開設、物資の供給など公助による支援があったとしても、身の安全については警察や消防が直ちに駆けつけてはくれない。

私たちの避難行動は地域や近隣の一人ひとりがお互いに協力し合うことにある。それには一にも二にも避難訓練が役立つ。避難の手順を何度も聞くよりも一度の体験が万一の時に生かされる。地域の防災訓練には一度といわず積極的に参加し身体で覚えよう。そう“百聞は一験にしかず”です。

写真で振り返る今年度の専門部活動

文化教養部

【心地よいウォーキングを学ぼう
（9月23日）】
（健康福祉部との共催事業）

活動を振り返って

文化教養部長　**吉田　信威**

○今年度の活動の成果

「心地よいウォーキングを学ぼう」、「にいつの史跡を訪ね歩こう（安吾の故郷を訪ねて）及び瀬古龍雄氏を講師に招いて「講演会；新津と鉄道の歴史」を当初の予定通り実施しました。

部員の協力もあり、概ね円滑に実施することができましたが、「史跡巡り」では当日の天候不順等が参加者数に影響を与えたように思われました。

○課題と来年度に向けた抱負

これらの実施に際しては、各町内、隣組の回覧及び町内会が管理する掲示板に開催案内を掲示する等によりPRを図りましたが、地域の方々により良く知ってもらい積極的に参加していただけるような方策を検討していくことが必要と思われます。

（ウォーキング野外実地講習）

【にいつの史跡を訪ね歩こう～安吾のふるさと歩き～（10月23日）】

【文化教養講座「新津と鉄道の歴史；講師　瀬古 龍雄さん」（11月18日）】

健康福祉部

【健康測定会（７月23日）】

活動を振り返って

健康福祉部長　**中山喜美雄**

○今年度の活動の成果

すっかり恒例となった「健康測定会」では多くの参加者を得て、楽しく行うことができました。「親子料理講習会」では、小学生が多く参加し賑やかに料理作りを楽しんでいました。

それぞれの行事で、陰で支えてくれた方々の協力の賜と感謝しております。このような活動を通して、少しでもコミュニケーションの輪が広がってくれればと願っています。

○課題と来年度に向けた抱負

今年度も福祉に関した活動が出来なかったことが心残りです。

地域の方々から健康福祉部の活動が幅広く認められるよう、福祉を含めた草の根的な活動を地道に取り組んで行こうと考えています。

【おはよう朝ごはん~親子料理教室~（12月４日）】

環境緑化部

【グリーンカーテン勉強会（７月23日）】

【グリーンカーテン出来映え
コンテスト写真展
（11月９～15日）】

活動を振り返って

環境緑化部長　**佐々木快宣**

○今年度の活動の成果

「緑のカーテンを町中に広げよう」をスローガンに「グリーンカーテンプロジェクトin新津中央コミ協」の取組を新たに開始しました。その一環である「グリーンカーテン出来映えコンテスト」には22件の応募があり、一週間の会期で写真展も開催できました。また、「新津川除草・クリーン作戦」には、当コミ協関係から参加総数の３分の１に当たる子どもを含む109人の方々からの参加を得ることができました。

○課題と来年度に向けた抱負

次年度は、今年度の取組に加え、市民参加型の「グリーンカーテン実技講習会」の開催やグリーンカーテン効果を確かめる社会実験など、取組の内容を広げて行きたいと考えています。

防犯防災部

【防犯防災部会
（６月24日、10月４日）】

【ブロック別児童登校時
パトロール】

【繁華街歳末パトロール（12月22日）】

活動を振り返って

防犯防災部長　**小林　和夫**

○今年度の活動の成果

地域の安全安心に少しでもお役に立ちたく活動に取り組んできました。より身近な触れ合いを目指し児童登校時パトロールを今年度から４ブロックに分散し実施しました。「あぁ、ここにもコミ協の人たちがいる」との声掛けもあり、コミ協パトロールも少しずつ認知されてきている感じがします。部員の皆様、本当にご苦労さまでした。

○課題と来年度に向けた抱負

今年度の目標の一つであった「防災」関係の活動ができなかったことが課題です。地域の人達の防犯防災意識をいかにして高めていくのかの視点から、地域内の他団体等の協力を得ながら活動の内容と質を高めて行きたいと考えています。

投稿コーナー

創作落語
「八さん、熊さんのコミュニティ談義」

八さん　「おーい。ところで熊さんよ、中央だかなんだか知らねいが、コミュニティって何だい」

熊さん　「ウ…、コミ・・コミ・・って　あれだよ、つまり小間物屋だ」

八さん　「ちがうよ」

熊さん　「じゃーなにか、コミ・・コミ・・ゴミ・ニューってごみのおばけ!!」

八さん　「ちがうって。何も解っちゃいない」

熊さん　「じゃ　なんだいこのカタカナ野郎は…」

八さん　「コミ・・コミ・・込みますねぇーってんだ」

熊さん　「ざまみろ、お前だって解っちゃいねんだ。あそこに町内会長が居るから聞いてみようよ」
「今日は良い天気で結構ですなー。ところでちょいと教えて貰いたいものが有るんですけど。コミュニティって何ですか」

町内会長　「一言で言うと、地域みんなで話し合って、何でもやろうと言う事だ」

熊さん　「じゃ　俺たちがやっている事だ。八と仲良く酒食らってよ、何処かパーと賑やかに遊びに行こうというのもコミュニティか」

八さん　「熊と話し合って、仲良くカラオケ行ったり、山に行くのもコミュニティ活動だ」

町内会長　「少ーし、違うね。酒飲むのも、遊びに行くのも良いのだが、各町内とかの問題も、みんなで相談して、改善していこうと言うことも大事なんだ」

熊さん　「町内、町内の問題は町内会長の仕事じゃないか」

八さん　「俺たちは、頼まれた仕事はやるが、考えることは苦手でね」

町内会長　「町内の問題は、私と皆の考えがまとまれば、行事をしたり、いろいろ改善をしたりでまずは話し合いが先。お互いの都合や体調を考え、スケジュールを決めて実施するのだが、コミュニティでも同じで、町内を少し広げて各町内の人々と協力して、地域の改善や、意識の向上に努めることが大切なのです」

熊さん
八さん　「解ったような解らんような、もやーとした感じがするが、要はコミ・・とやらが、計画を立てたら、他町内の悪口は言わず、喧嘩せずに何かやる時は、できるだけ協力するという事だね。
俺たちも忙しいので、ここで失礼します」

（投稿者；中沢町　南澤　肇さん）

※「投稿コーナー」を新設しました。詩、短歌、俳句、川柳、コント、随想など何でもよろしいです。ふるって応募ください。投稿された方には、図書カードを進呈します。応募先は新津中央コミュニティ協議会広報委員会（〒956－0864　秋葉区新津本町１-２-39　新津地域交流センター内）

事務局から

◆第２回専門部正副部長会議が開催されました

平成24年１月17日㈫午後６時から、新津地域交流センター301会議室で、今年度第２回の専門部正副部長会議を開催しました。

広報委員会を含む各専門部から、今年度の活動の内容と、取組の総括が報告された後、開催事業への参加率を高めるために、地域の方々への周知の在り方などについての意見交換がなされました。秋葉区役所だよりや新聞などの積極的な活用、19町内会を幾つかのブロックに分け、町内会と連携した事業開催などの必要性が話し合われました。

第２回常任委員会報告

平成24年１月31日㈫午後５時半から荻川コミュニティ協議会の風間淳一会長を講師にお招きし、「コミ協活動と町内会の関わり」をテーマに常任委員の研修会を開催しました。荻川コミ協の風間淳一会長さんからは、今年発足30周年を迎える荻川コミ協のこれまでの歩みや現在の取組などについて、お話をいただきましたが、「コミ協活動を通しての地域づくりには、自治会や町内会の協力が不可欠である。そのためにはコミ協役員と自治会長・町内会長との普段の共通認識の構築が大事である」との結びの言葉が印象深く心に残りました。

【編集後記】

昨年は、東日本大震災や新潟・福島豪雨など災害の多い年でした。これらの災害で「絆」の大切さが話題になりました。人と人のつながり、地域と人のつながりを築くことの大切さを思い知らされました。このコミ協だよりも、少しでも地域のコミュニティ意識の高揚のため、限られた紙面ですが、皆さんの交流情報など、人と人との絆を大切にした紙面づくりに頑張っていきたいと思っています。　（広報委員　石田健司　記）

（注）新津中央コミュニティ協議会の各種事業は、主に新潟市からの補助金により賄われています。